

## 「学校風土向上カード」実施上の留意点

### (1) ゲーミフィケーションワークショップの意義

「学校風土向上カード」ゲーミフィケーションワークショップ（略称：ゲミワ）では、捉えにくい「学校風土」という抽象概念を、具体的に考え、主体的なかかわりを促します。つまり、児童生徒が学校風土について「自分のこと」「自分たちのクラスのこと」として考え、より積極的にかかわっていくことが期待できます。

#### 〈学校風土とは〉

学校風土とは、教師と児童生徒が日々の学校生活で積み重ねる経験から形成されるもので、学校の決まり、目標、価値観、人間関係、授業実践、組織体制などに影響を与えるものです(The National School Climate Council, 2007)。つまり、学校全体の雰囲気指し、教師と児童生徒の関係、児童生徒同士の関わり、学校のルール、授業、行事などによって形作られます。(公社)子どもの発達科学研究所の日本における学校風土研究では、学校風土は「安心安全(スクールセーフティ:SS)」と「積極的な関わり(スクールエンゲージメント:SE)」の2つの要素で構成されることが明らかになっています。

#### 〈学校風土の重要性〉

良好な学校風土は、いじめの防止、不登校の減少、メンタルヘルスの向上といった予防的な効果をもたらすだけでなく、学力向上にも関係があることが、世界中の研究で示されています。

#### 〈学校風土を向上させるには〉

学校風土の向上には教師の行動が重要ですが、児童生徒自身が集団のあり方に責任を持ち、主体的に関わることも大切です。ただし、学校風土の形成を児童生徒の責任とするのは誤りです。学校風土の改善には、教師や学校組織の主体的な関与が不可欠であり、その上で児童生徒の協力を得ることが重要です。

### (2) 目的

「学校風土向上カード」ワークショップは、クラスや学校全体の雰囲気や人間関係(学校風土)を、児童生徒自身が見つめ直し、向上させるための行動を考えるワークショッププログラムです。いじめが起こりにくい学校には、「子どもたちが感じる安心安全(スクールセーフティ:SS)」と「子どもたちの積極的で良好なかかわり(スクールエンゲージメント:SE)」という2つの重要な要素があることが研究からわかっています。このワークショップでは、クラスの現状を見える化し、その強みや課題を話し合いながら、より良いクラスづくりに向けたアクションプランを考えます。

(※事前に「いじめ予防授業 トリプルチェンジ」の「サードチェンジ(集団を変える)」を実施しておくことを推奨します。)

### (3) 必ず注意すべきルール

グラウンドルール「自分の考えを素直に話すこと」・「他人の意見を否定しないこと」・「人の名前を出さないこと」を最初に確認しておきましょう。

## 「学校風土向上カード」指導例（小学校6年生 道徳科）

### 1 内容項目との関わり

C主として集団や社会との関わりに関すること「よりよい学校生活、集団生活の充実」

- 学級や学校の一員としての自覚を持ち、協力し合ってより良い環境をつくろうとする態度を育てる。
- 集団の中での自分の役割と責任を理解し、規則やルールを守り、秩序ある学校生活を送ろうとする心情を養う。

### 2 ねらい

学校風土向上カードを使ったワークショップを通して、

- 学級や学校の一員としての自覚を深める。
- 協力し合うことの意義や、自らの役割・責任の重要性に気づく。
- より良い学校生活を築くために自分ができる具体的な行動（アクションプラン）を考える。

### 3 指導内容（学習活動・指導上の留意点）

学習活動	指導上の留意点
<p><b>1 「学校風土」とは何かを理解し、授業の目的を知る。</b>                      ○今日は「より良い学校生活ってどんなものかな？」ということを中心に考えていきます。                      ○まずは「学校風土（ふうど）」という言葉について、動画（またはスライド）で紹介します。                      ○「SS:安心安全」と「SE:積極的な関わり」という2つのポイントに注目して聞きましょう。  <b>【本時のめあて】</b>                      「クラスのよさや課題に気づき、自分たちでよりよくするにはどんな行動ができるかを考えよう」</p> <p><b>2 「学校風土向上カード」で、自分の感じ方を振り返る。</b>                      ○今からカードを使って、自分のクラスの様子について考えていきます。                      ○★マークのついた10枚のカードを読み、それぞれ「とてもそう思う」「どちらとも言えない」「そう思わない」のどれかを選び、チップを置きましょう。</p> <p><b>3 グループでスコアを出して、カードをボードに並べる。</b>                      ○グループで、今置いたチップの数を合計して、スコアボードにカードを置きます。                      ○できあがったボードを見ると、自分たちのクラスの「できていること」と「もう少しがんばりたいこと」が見えてきます。</p>	<p>☆授業冒頭では、児童に「これまでにクラスで嬉しかったこと」「安心できたこと」「楽しかった出来事」などを挙げさせ、ポジティブな学校風土を実感させる。                      ◆動画の視聴（もしくはスライドで説明）                      ☆キーワード（「SS:安心安全」と「SE:積極的な関わり・SE」）を板書する。                      ☆児童の自由な意見を受け止めつつ、学校風土が「子どもたち自身の行動でもつくり出すことができる」ことに気づかせるよう導く。</p> <p>☆活動を始める前に、ワーク中のグラウンドルール（①素直に話す、②他人の意見を否定しない、③人の名前を出さない）を全体で確認してからスタートする。                      ☆ふざけたり適当に選んだりすると、クラス全体の分析がずれてしまうため、「真剣に考えてチップを置くこと」の大切さを伝える。                      ☆「自分の感じ方に正解・不正解はない」と伝え、安心して取り組める雰囲気をつくる。                      ☆児童が自分の行動やクラスの様子を内省するきっかけとなるよう声かけを行う。</p> <p>☆課題が多い場合でも「成長のチャンス」として捉えるよう励ます。  <b>【言葉がけの例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「もし『良い点がありませんでした…』というグループがあっても、それは、今がクラスとして成長するチャンスだというサインです。」</li> <li>● 「大事なことは、『どうすればもっとよくなるか』を見つけて、少しずつ行動にうつしていくこと。」</li> </ul>

#### 4 課題になりそうなカードを1枚選んで、アクションプランを考える。

- ボードの真ん中や左にあるカードから、気になるカードを1枚選びます。
- カードのうらに書かれている「向上のカギ」を参考にして、「よくするために自分たちにできること」を考えましょう。
- 「自分だけでできること」「グループでできること」「先生に相談すること」に分けて考えるとわかりやすいです。

#### 5 アクションプランを発表し合い、他のグループのアイデアも聞く。

- グループで考えたアクションプランを、代表の人が発表します。
- 発表を聞いたら、「いいな」「まねしてみたいな」と思ったものに手を挙げたり、シールを貼ったりしてみましよう。

#### 6 まとめと振り返りを行う。

- 「学校の雰囲気って、一人ひとりの行動の積み重ねで変えていけるんだよね」ということを、もう一度みんな確認します。
- 今日の気づきや、「これからやってみたいな」と思ったことを、ワークシートに書いてみましょう。

#### ◆動画の視聴（もしくはスライドで説明）

- ☆カードを1枚選ぶ際の基準を黒板に掲示して、先に伝えておく。（「日常の中で「ちょっと気になるな」と思うこと」・「もっと良くしたいと感じること」・「こうなったらクラスがもっと楽しくなりそう」・「安心して過ごせそう」など）
- ☆児童の話し合いの中で「～をする」「～と言う」など、行動レベルで具体化するよう促す。
- ☆抽象的な目標（例：「もっと優しくする」）ではなく、行動（例：「朝、近くの人におはようを言う」）に落とし込ませる。
- ☆意見が出にくい場合は、カード裏面の「カギ」のヒントを読み上げてもよい。

- ☆発表に対しては「良かった点」や「さらによくするにはどうすればよいか」を意識しながら、肯定的な意見や提案を出すよう促す。
- ☆発表されたアクションプランの中から、クラスで実践したいものを選び、教室に掲示するなど、継続的に生かせるようにする。

#### ◆動画の視聴（もしくはスライドで説明）

- ☆振り返りが時間内に十分にできなかった場合は、翌日の朝の会や道徳の時間に、自分の感じたことや心に残ったことをあらためて共有する時間を設ける。
- ☆単純に「ワークショップが楽しかった」という感想もポジティブに受け止めつつ、どんなことに気づいたか、どんな考えをもったかを丁寧に問いかけることで、価値に対する自覚を深めるようにする。
- ☆ワークシートや感想から見られる児童の気づきや思いを次回の道徳や学級活動に生かし、児童が自分の生活を振り返りながら実践につなげていけるように働きかける。

- ※ワークシートに記入されたアクションプランは、クラス全体や各グループで共有し、教室に掲示することで継続的な取り組みにつなげる。

#### 4 評価の視点

- ワークを通して、学級や学校の一員としての自覚をもち、より良い学校生活を築こうとする気持ちが高まっている。
- カードやワークシートを活用して、自分たちのクラスの良さや課題に気づき、それを改善するための行動を主体的に考えている。
- 協力的に活動に取り組み、自分の役割や責任を意識しながら話し合いや発表に参加している。
- ※ワークシートの記述、児童の発言や態度、グループ活動の様子などから評価を行う。